

東富橋

橋梁形式：鋼単純プラットトラス橋
架設年次：昭和5年2月
所在地：江東区富岡二丁目から
牡丹三丁目間大横川に架かる
橋長：40.5m
幅員：18.1m
指定：江東区都市景観重要建造物



現在の様子



現在の様子



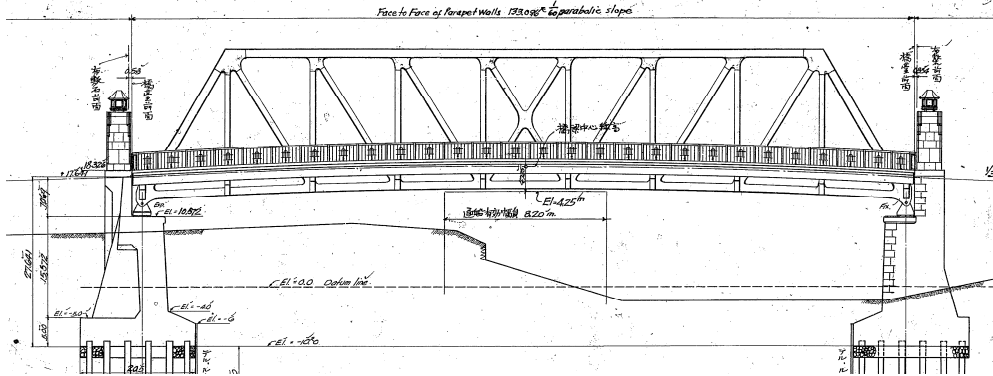
撮影年不明

東富橋は、大正12年に発生した関東大震災の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」の一つです。

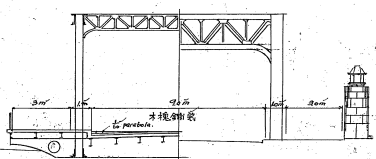
トラスとは、まっすぐな直線部材で構成された骨組構造で、主構造にトラスを用いた橋梁をトラス橋と呼びます。

プラットトラスとは、トラスの一部で、斜材を橋中央部から端部に向けて「逆ハ」の字に配置したもので、Tomas W. Prattが特許を取ったことから、この名称で呼ばれています。

側面図



正面図



景観整備工事について

平成6年に「歴史と文化の中で人と橋が調和する橋上空間を創出する」をテーマに景観整備工事を実施しました。

橋の北側には、江戸時代、三十三間堂があり、遠矢の数を競い合ったと言われています。この矢がデフォルメされ、親柱等のデザインの基本となっています。高欄の中央部には区の無形文化財に登録されている刺繍画のレリーフが設置されています。



説明板設置工事について

令和5年に関東大震災から100年を迎えるにあたり、過去の記憶や震災復興橋梁の歴史を広く区民に継承し、防災意識の啓発を図るために震災復興橋梁の説明看板を設置しました。

また、東富橋は江東区都市景観重要建造物に指定されていることもあり、景観に配慮、看板の一部にタイルの矢筈張りを採用しています。

